

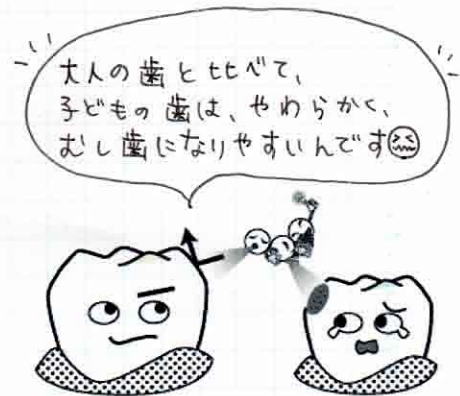
今月のテーマは『子供のむし歯の特徴』です。

お子様にできてしまった小さなむし歯。ちゃんとケアしていたのに気が付いたら大きくなっていて歯に穴が…と、いう経験はありませんか??

子どものむし歯を作らないために、正しい知識をもって最適なケアを行い、むし歯ゼロをめざしましょう。

子供の歯と大人の歯の違いって??

- ◎子どもの歯(乳歯)は、大人の歯(永久歯)に比べて大変やわらかくむし歯になりやすいものです。また、乳歯も永久歯も生えてきたばかりの歯は未成熟で、これもむし歯になりやすく、その進行もとても早いのが特徴です。そのため、子どものむし歯には注意が必要です。
- 特に食生活や歯みがきなど、自分でコントロールできない小さな子どものむし歯は、保護者の管理が大変重要です。
- そして、生涯むし歯に苦しむか、むし歯を知らずに過ごせるかは、子どもの時期のケアによって大きく左右されます。



子どものむし歯の特徴

- その①【子どもの歯(乳歯や生えたばかりの永久歯)はむし歯になりやすい】
 - ・子どもの歯は、大変やわらかく油断をするとすぐにむし歯になってしまいます。
- その②【子どもの歯のむし歯は進行が早く広範囲に広がりやすい】
 - ・子どもの歯は、大変やわらかい上、歯の表面の硬いエナメル質が薄いので進行も早く、広範囲に広がります。
- その③【子どものむし歯は母親などの保護者に大きく影響される】
 - ・むし歯の原因菌は主に家族から感染します。
 - ・甘いおやつや不規則な食事のリズム(だらだら食べ)や歯みがき習慣(しあげみがきの不徹底)など家庭でのケアがむし歯の発生に大きく影響しているのです。



むし歯をつくらないためには...

- ◎今回紹介したように、お子様にむし歯ができるかできないかは、保護者の方の管理が重要になってきます。特に小さなお子様は自分でケアや管理が出来ない分、大人が食事面や衛生管理をしっかりといきましょう。そして、家族からの感染の可能性もあるので家族全員でむし歯ゼロを目指しましょう!!